

ごみ組成分析調査結果について

(1) 調査目的

本調査の目的は、家庭から排出される生活系（可燃）ごみ、事業所などから排出される事業系（可燃）ごみについて組成割合を調査し、ごみの排出状況を把握するとともに、更なるごみの減量化・資源化推進のための基礎資料とすることである。

(2) 調査概要

【家庭系ごみ】

実施日	10月26日（月）
試料採取地域	相馬地区（相馬字紙漉沢）
集積所の形態	ステーション方式（町会等） ボックス形式
想定条件	農村地域
採取量	206.1 kg（集積所2ヶ所分）
収集時間	25分

【事業系ごみ】

実施日	10月27日（火）
調査場所	南部清掃工場（弘前市大字小金崎字川原田54）
採取量	213.7kg

(3) 調査結果

【家庭系ごみ】

- ・ 「厨芥類」が全体の58.5%を占めており、「厨芥類（未使用）」が10.5%、「厨芥類（調理くず・食べ残し）」が48.0%と、特に調理くず・食べ残しが非常に高くなっている。
- ・ 今回は農村地域を対象として調査を実施しており、8月で調査対象とした「分別等の意識が高いと思われる住居地域」での結果44.5%と、9月で調査対象とした「商業地域付近の住宅」での結果45.5%と比較しても非常に高い割合となっている。
- ・ そのため、市民に対する3キリ運動（※）の普及啓発を図る必要がある。

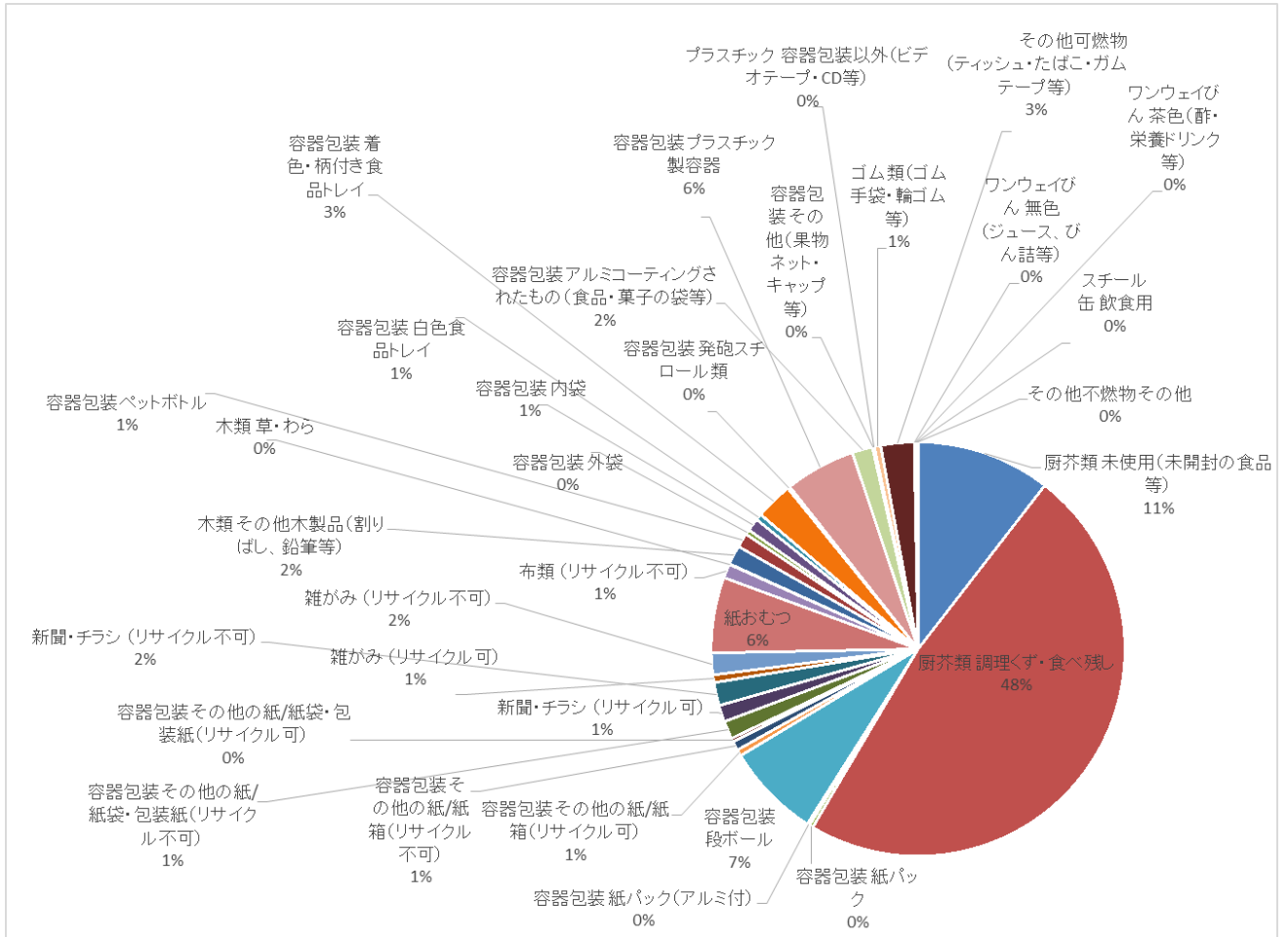
※3キリ運動・・・食材を使い切る「使いキリ」、食べ残しをしない「食べキリ」、ごみを出す前に水を切る「水キリ」の3つの「キリ」に取り組む運動のこと。

- ・ その他、「ガラス類（ワンウェイびん）」や「金属類（スチール缶 飲料用）」などの不燃ごみが0.3%程度混入していた。また、資源ごみである「新聞・チラシ（リサイクル可）」、「雑がみ（リサイクル可）」もそれぞれ 1.3%、0.6%混入しており、分別の徹底が必要である。

【事業系ごみ】

- ・ 「紙類」が41.8%と最も高い割合を占めており、次いで「木類」の34.6%、「プラスチック」の10.8%が高く、これら3種が全体の約87.2%を占めている。
- ・ 「紙類」では特に「段ボール」が全体の28.6%を占め、8月実施分の20.7%と比較しても非常に高い割合となっている。事業者に対して適性排出を促すためにも、古紙類の受入制限を実施する必要があると考えられる。
- ・ 「木類」では特に、「その他既製品（割り箸、鉛筆等）」が全体の20.3%を占める高い割合となっている。（8月実施分は14.4%）
- ・ 「プラスチック製容器包装」ではペットボトル、食品トレイ、発泡スチロール以外の「その他のプラスチック製容器包装」が、全体の6.8%を占める高い割合となっている。
- ・ 不燃ごみ（「ガラスびん（ワンウェイびん）」、「アルミ缶（飲料用）」、「その他金属類（ライター・ハンガー・釘等）」、「その他不燃物」）もわずかではあるが全体の0.4%程度混入していた。

【家庭系ごみの組成内容】



【事業系ごみの組成内容】

